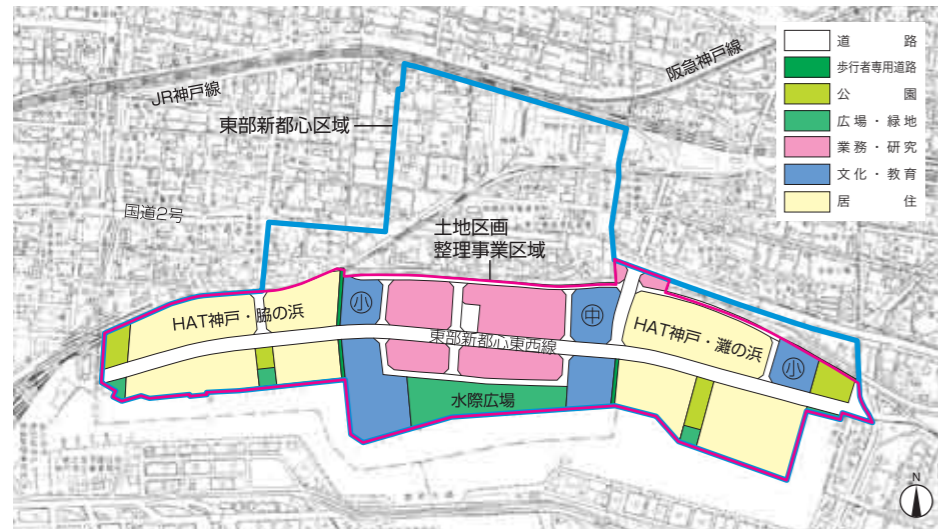


土地利用計画図



施設の紹介



海に面する親水空間 水際広場



赤十字血液センター



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター



人と防災未来センター前での訓練の様子



兵庫県立美術館



潮風をイメージした 灘スカイデッキ

HAT神戸・灘の浜



はなの広場から見える1番館(奥の高層棟)



灘の浜公園

HAT神戸・脇の浜



脇の浜 機構エリア全景



東部新都心東西線から見る脇の浜

位置図



当地区では土地区画整理事業、住宅市街地整備総合支援事業、港湾事業を同時・一体的に行うことにより、防災拠点の形成と新しいコミュニティと文化を育む街の実現をめざしているのが特徴です。そのうち生産機能の遊休化が進んでいる臨海部(約75ha)については、UR都市機構が神戸市から土地区画整理事業の業務を受託し、緊急かつ大量の住宅の供給や業務・研究、文化・交流等の都市機能の導入を図るための基盤整備を行いました。そして超高層や高層のUR賃貸住宅、公営住宅など多様な都市型住宅の建設供給をはじめ、緑豊かなヒューマンスケールの空間形成、アメニティモール、店舗や生活サービス、医療施設、高齢者福祉施設の配置などにぎわいと憩いを育むまちづくりをめざしました。

施行前の地区全景 (平成7年8月)



施行後の地区全景



事業の概要

事業名	神戸国際港都建設事業 東部新都心地区土地区画整理事業
施行者	神戸市 (UR都市機構に業務委託)
所在地	神戸市灘区及び中央区
施行期間	平成8年2月～平成20年度(清算期間5年を含む)
施行面積	約74.7ha
計画人口	約20,000人
平均減歩率	約36.2%
事業費	約560億円(内機構受託分:約451億円)

震災からの復興を目指す「神戸市復興計画」のシンボルプロジェクト
HAT神戸(神戸東部新都心地区)

神戸三宮の東、約2kmに位置する「HAT神戸」は臨海部における大規模工場跡地の遊休化に対応し、「神戸市基本計画」で東部新都心として位置づけられ、土地利用転換を図る総合的な整備エリアとして阪神・淡路大震災以前から整備がすすめられてきました。しかし震災を機に、その復興をめざす「神戸市復興計画」のシンボルプロジェクトとして、甚大な被害を受けた市街地の住宅や産業等の都市機能の受け皿となる市街地復興の先導的な役割を担うことになりました。